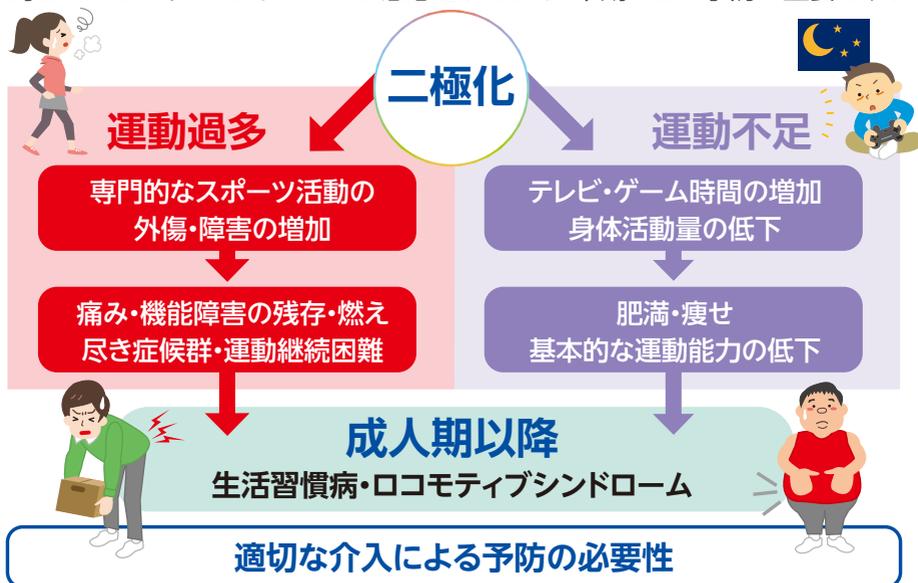


通常学級での関わり

子どもがもつ運動器の問題は、身体の成長に比べて、体力が伴っていないことが特徴です。運動習慣に関する二極化(運動過多と運動不足)がみられ、将来的なロコモティブシンドロームが懸念されており、早期からの予防が重要です。



専門家による障がいの早期発見・予防

運動器検診では、骨格の異常、バランス能力、関節の痛みや可動域制限などが学校医により検査されます。検診によって発見された問題に対して、理学療法士は医師の指示のもと、適切な治療・介入に関わります。



脊柱側彎症
背骨が曲がっていないか



肘痛
肘の曲げ伸ばしに痛みがないか



**股関節痛
バランス不良**
片足でふらつかないか



腰痛
体を曲げたり、反らしたりして腰に痛みがないか



**膝関節痛
足関節痛**
足の裏を床につけてしゃがめるか

運動器検診による障がいの早期発見